

容器包装にみる未来のリサイクル

【目次】

はじめに

第1章 ごみと環境問題

第1節 ごみ

第2節 ごみ問題の歴史

第3節 ごみと環境問題

第4節 国のごみ問題に対する意識

第5節 企業のごみ問題に対する意識

第6節 消費者のごみ問題に対する意識

第2章 容器包装と法

第1節 容器包装リサイクル法

第2節 改正容器包装リサイクル法

第3節 容器包装の分類

第4節 容器包装別リサイクルの仕組み

第5節 容器包装の課題

第6節 企業の取り組み

第3章 リサイクルと環境保全

第1節 リサイクル

第2節 人間と自然

第3節 江戸時代の生活

第4節 江戸時代の環境政策

第5節 もったいない

第6節 私たちに求められているもの

おわりに

【目的】

既に、環境問題は、社会生活において重要な問題意識として提起されてから30年近い年月が経過している。環境問題は、非常に複雑で困難な問題といえる。環境の崩壊は、生き物本来の存在すらできなくなる。あらゆる社会において、環境を考えた行動が個々人にも求められてきているが、環境問題と一言にいっても様々あり、環境に関連した情報も膨大で、情報を発するものにより環境問題への対応には様々な見解がある。その中からできるだけ正確な情報を得、より環境負荷の少ない取り組みを行う必要が出てくる。環境問題の一つであるごみ問題を取り上げ、現行されている環境対策としてのリサイクルをもう一度見つめ直すことにした。環境への配慮と私達の生活基盤の両視点から見た際、理想的な環境保護の仕組みとは何かを考察する。

【方法】

ごみ問題を考える際に、度々耳にするリサイクルという概念を、容器包装に的を絞って考える。参考文献・インターネット・書籍を読み、そこから読み取れたキーワードから、今後望まれるリサイクルの在り方を考察する。

【結論】

ごみの減量の為に生まれたリサイクルであるが、最近では、リサイクルすることに力が注がれ、肝心のごみ減量に支障を来している傾向がある。環境保全に必要なことは、あくまでもごみの減量であり、リサイクルはそのための一つのオプションに過ぎない。リサイクルよりもリデュースが重要なのである。ごみの減量に必要なことは、情報に踊らされない確かな知識、日本を見つめ直す心、環境問題と前向きに付き合う思考、個々人の責任の向上である。これらが1人1人に浸透した上で環境問題を考えられるようになった時、環境保護へと確かに繋がるリサイクルが行えるのではないかと考える。

【主な参考文献】(一部掲載)

市橋貴『ゴミと暮らしの戦後50年史』-----リサイクル文化社(2000)

安井至『リサイクル回るカラクリ止まる理由』-----日本評論社(2003)

武田邦彦『リサイクル幻想』-----文藝春秋(2000)

鬼頭宏『環境先進国江戸』-----PHP研究所(2002)